

## 令和6年度 施策評価シート

施策の名称	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用	幹事 部局	政策企画局
施策の目的	日本を代表し、世界に誇ることのできる数々の地域資源を活用した地域振興を進めます。		
施策の現状に対する評価	<p><u>①(島根が世界に誇る歴史的遺産及び自然環境の活用)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>島根県には、世界文化遺産の石見銀山遺跡や隠岐ユネスコ世界ジオパークなどの歴史的遺産、大山隠岐国立公園、ラムサール条約湿地に登録された宍道湖・中海の自然環境など、日本を代表し、世界に誇ることができる地域資源がある。</li> <li>これらの地域資源は、観光やレジャーの振興、交流人口の拡大、地域の活性化に寄与しているが、地域資源の持つ魅力や価値の発信については、認知度の広がり課題となっている。</li> <li>観光面では、来訪者数がコロナ禍前の水準までほぼ回復したエリアもあるものの、訪日外国人や団体旅行観光客などは戻り切っていない。</li> <li>情報発信については、動画配信(自然体験動画、宍道湖・中海の水鳥観察会、島根の歴史文化講座、石見銀山遺跡の講座等)を引き続き実施した。分かりやすいコンテンツを制作し、配信方法を工夫することによって視聴者数が増加し、興味・関心も高まったと感じた人の割合も高まった。</li> </ul> <p><u>(前年度の評価後に見直した点)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然公園への来訪意欲の向上を図るため、自然体験動画を用いたプロモーションを行うこととした。</li> <li>「歴史・文化」「伝統・芸能」「自然」を活用した観光コンテンツ造成を支援する魅力ある観光地域づくり支援事業の補助メニューに、JR観光列車の発着時に行われる地元おもてなし事業を追加した。</li> </ul>		
今後の取組の方向性	<p><u>①(認知度向上の取組)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歴史的遺産や自然環境それぞれが持つ魅力や価値を更に高めることを基本としながら、情報に対するアクセスを改善するため、一体的な広報を図るとともに、ふるさと教育など教育現場で活用してもらえるよう素材の提供、動画配信やSNSの活用など、情報発信を工夫し、県内外での認知度を高め、交流人口の拡大と地域の活力につなげる。</li> </ul> <p><u>②(誘客の取組)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光への活用については、引き続き首都圏のPR会社と連携し、テレビや雑誌など各種メディアでの露出を高め、各資源の認知度の向上や来訪意欲の喚起を図るとともに、地域資源を活かした体験コンテンツや旅行商品造成の取組を支援し、受入環境の充実を着実に進める。</li> <li>令和9年の石見銀山発見500年・世界遺産登録20周年に向けて、大田市等と連携して石見銀山の魅力化の取組を検討するとともに、その魅力を、令和7年大阪・関西万博の開催を契機に国内外の注目が集まる関西地域で発信することで、島根県の認知度向上及び誘客促進につなげる。</li> </ul>		



事務事業の一覧

施策の名称	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
-------	----------------------

	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	隠岐ユネスコ世界ジオパーク活用推進事業	隠岐地域に住む人、隠岐地域を訪れる人	隠岐ユネスコ世界ジオパークの取組を通じて、持続可能な経済活動や文化活動を推進することにより、隠岐地域の活性化と振興を図る。	85,776	326,441	自然環境課
2	しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業	外国人利用者をはじめとした県内自然公園の利用者	県内の自然公園の活用を図り、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す。	98,226	177,140	自然環境課
3	穴道湖・中海賢明利用推進事業	県民、民間団体等	ラムサール条約湿地である穴道湖・中海の環境を保全し、賢明利用により地域の活性化を図るとともに、両湖の認知度向上を図り地域の誇る財産として次世代へ引き継いでいく。	7,612	8,927	環境政策課
4	「ご縁の国しまね」観光総合対策事業	観光ニーズを持つ県外在住者および県内の観光事業者	県外在住者：「ご縁」等の島根のイメージを発信することで、島根に興味を持ってもらい、来訪してもらう。 観光事業者：「ご縁」といった島根のイメージに沿うような観光商品や受入体制をつくる。	321,749	353,377	観光振興課
5	未来に引き継ぐ石見銀山保全事業	県内外の人々	世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値を高め、その価値や魅力についての情報発信による認知度の向上や、適切な保存整備を図ることで、確実に未来に継承する。	72,637	86,054	文化財課
6	島根の歴史文化活用推進事業	県内外の人々	しまねの豊かな歴史文化の魅力を広げ、県民の郷土への自信を培う。県外の方々には、しまねの歴史文化に関心をもってもらうことで、人々の交流を促進する。	32,058	36,816	文化財課
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		隠岐ユネスコ世界ジオパーク活用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	隠岐地域に住む人、隠岐地域を訪れる人	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	隠岐ユネスコ世界ジオパークの取組を通じて、持続可能な経済活動や文化活動を推進することにより、隠岐地域の活性化と振興を図る		85,776	326,441
令和6年度の取組内容		(一社)隠岐ジオパーク推進機構と連携し、地域振興、観光振興、保全保護、調査研究、教育・人材育成のための取組を実施 ①隠岐ジオパーク推進機構の運営経費の一部負担 ②隠岐ユネスコ世界ジオパーク内のジオサイトの施設整備 ③県内外への情報発信、他のジオパークやそれを有する自治体や運営組織などと連携した認知度向上の取組 ④拠点施設・中核施設の整備を支援(隠岐の島町、海士町) ⑤隠岐ユネスコ世界ジオパーク認定審査に向けた対応			
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと					
1	上位の施策	Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	I-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	(一社)隠岐ジオパーク推進機構ホームページのPV数【当該年度4月～3月】	目標値		280,000.0	360,000.0	440,000.0	520,000.0	600,000.0	PV数	単年度 値
		実績値	214,626.0	200,437.0	238,304.0	236,357.0	135,807.0			
		達成率	—	71.6	66.2	53.8	26.2	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・隠岐DMO化に伴い、機構においてR5にWebサイトのリニューアルを実施。「ジオパーク」、「観光」の2サイトを整備し、情報等の整理を行った。隠岐ジオパークへの興味関心度を測るためジオパークサイトPV数を計上(参考:観光サイトPV数:R5 2,465,369) ・隠岐地域の観光入込客延べ数:R元 167千人→R2 92千人→R3 123千人→R4 186千人→R5 201千人(県観光動態調査結果) ・交流人口数(推定入島客数):R元 123千人→R2 66千人→R3 72千人→R4 96千人→R5 111千人 ・隠岐を訪れる外国人観光客数:R元 1,133人→R2 96人→R3 38人→R4 138人→R5 1,044人(隠岐汽船利用者のみ)								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・隠岐ユネスコ世界ジオパークの認定継続に向けて必要な展示施設の整備、誘導標識・サイト看板の整備、地質遺産の教育促進等はいずれも対応中または対応済。 ・隠岐DMO組織の運営支援を実施。 ・令和4年12月にユネスコ世界ジオパークとして再認定。次回再認定審査は令和7年度の予定。
課題分析	① 課題	・ジオパークそのものの認知度向上が進まず、隠岐ユネスコ世界ジオパークの認知度もまだ低い。 ・隠岐での滞在を延ばすような体験コンテンツやツアーなどが不足している。 ・令和4年度に(一社)隠岐ジオパーク推進機構(隠岐DMO)が立ち上がったところであり、新たな推進体制をベースとした業務の充実及び事務局運営体制の強化を図ることが必要。
	② 原因	・隠岐ユネスコ世界ジオパークの魅力ある自然景観や歴史などが観光資源として活用できていない。 ・災害等により施設の利用に支障があるため、活用できないジオサイトがある。 ・ホームページ、インターネット、SNS等を利用した情報発信が不十分。
	③ 方向性	・(一社)隠岐ジオパーク推進機構が中心となり、4町村や県など関係機関で連携し、隠岐ユネスコ世界ジオパークの魅力向上のための環境教育・学術研究・ジオサイト整備や、来島者の増加及び満足度向上のための観光誘客の取組の強化など具体的な事業に取り組む。 ・隠岐ユネスコ世界ジオパークの認定継続に向けて、(一社)隠岐ジオパーク推進機構と連携し、必要な施設整備等を計画的に実施する。

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業				
目的	誰(何)を対象として	外国人利用者をはじめとした県内自然公園の利用者	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額	
	どういう状態を目指すのか	県内の自然公園の活用を図り、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す		98,226	177,140	
			うち一般財源 (千円)	48,838	61,750	
令和6年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内の自然公園への誘客促進に向け、自然公園を活用した体験プログラムの開発やガイド養成など、民間事業者等の取組を支援</li> <li>自然公園の魅力発信のため、県内自然公園を活用した自然体験動画の作成及び国内外へのプロモーションを実施</li> <li>受入環境の向上のため、国立公園内の遊歩道や標識等の再整備、景観阻害する樹木の伐採</li> <li>満喫プロジェクト推進事業の連携強化とレベル向上のため、活動団体等を対象とした研修会の開催</li> </ul>					
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然体験動画を用いたプロモーションを行うことで、来訪意欲の向上を図る</li> </ul>					
1	上位の施策	Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用	
2	上位の施策	Ⅰ-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	Ⅲ-3-(1) 稼げるまちづくり	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	大山隠岐国立公園関係市町村及び周辺宿泊拠点の外国人宿泊者推計【前年度1月～当該年度12月】	目標値		61,000.0	21,000.0	40,000.0	65,000.0	85,000.0	人	単年度 値
		実績値	64,997.0	7,589.0	3,306.0	4,412.0	(R6.10予定)			
		達成率	—	12.5	15.8	11.1	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> <li>大山隠岐国立公園の区域が含まれる市町村内の宿泊者数を環境省が推計</li> <li>環境省の数値から関係市町村(松江市、出雲市、大田市、美郷町、飯南町、隠岐の島町、海士町、西ノ島町、知夫村)と島根県東部(安来市、雲南市、奥出雲町)の宿泊者数を推計(過去の推計数値 H28 35,761人、H29 37,043人、H30 47,470人、R元 64,997人、R2 7,589人、R3 3,306人、R4 4,412人)</li> <li>令和5年島根県観光動態調査結果の外国人宿泊客延べ数は、59,321人(前年(9,883人)と比べ500.2%増加)</li> </ul>								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然公園を活用した体験プログラムの開発やガイド養成などの取組を支援する補助金の公募を実施し、12事業を採択した。</li> <li>自然公園等の遊歩道の整備等を実施し、受入環境の向上が進んでいる。</li> <li>自然公園の魅力ある情報を発信するため、YouTube広告を用いて国内外に発信し、島根の自然公園の認知度向上につなげた。</li> </ul>
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で行われる自然体験プログラムが誘客になかなか結びついていない。</li> <li>県内の自然公園の認知度が低い。</li> <li>回復傾向が見られるものの、国内外の来訪者は伸び悩んでいる。</li> </ul>
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組を支援する補助金の情報が、対象となる事業者等に広く認識されていない。</li> <li>魅力的な体験プログラムの造成が進んでおらず、また来訪者が長期滞在して楽しめるメニューが少ない。</li> <li>自然体験に興味があるターゲットに情報が届いていない。</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然体験プログラムの造成、磨き上げや販売促進等、民間団体の取組を誘客につなげていくため、関係機関と連携し、補助金による支援を推進する。</li> <li>自然公園の効果的なPRや広報を行い、国内外への情報発信を強化する。</li> <li>自然公園の魅力及び利便性向上並びに来訪者の安全確保のため、施設修繕等の受入環境の整備を行う。</li> </ul>

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

環境政策課

事務事業の名称		宍道湖・中海賢明利用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	県民、民間団体等	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	ラムサール条約湿地である宍道湖・中海の環境を保全し、賢明利用により地域の活性化を図るとともに、両湖の認知度向上を図り地域の誇る財産として次世代へ引き継いでいく。		7,612	8,927
			うち一般財源 (千円)	3,110	4,587
令和6年度の取組内容		・地域住民が参加する人の五感による湖沼環境評価や小中学生を対象とした流入河川調査を実施し、宍道湖・中海への興味関心と環境保全意識の向上を図る。 ・ラムサール条約の理念である「保全再生」「賢明な利用」、これらを促進する「交流学习」を推進するため、沿岸市での一斉清掃や子どもラムサール交流会等を実施するとともに、ラムサール条約について分かりやすく説明したパネルを作成する。 ・コウノトリ、トキをはじめとして多様な生物が生息する環境の保全再生及び地域活性化に取り組むことを目的に、民間団体や関係自治体を構成員とする協議会を設置し、協議会の取組を支援する。			
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと		・斐伊川水系生態系ネットワークとの共催により、斐伊川流域の水鳥の生息状況について理解を深め、自作イラストの缶バッジを作成するワークショップを開催した。 ・出雲市の協力を得て、トキの放鳥に係る市の取組について学び、斐伊川河口で水鳥観察会を開催した。			
1	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	宍道湖・中海賢明利用スポーツ来訪者数【前年度1月～当該年度12月】	目標値		276,000.0	282,000.0	288,000.0	294,000.0	300,000.0	人	単年度値
		実績値	332,438.0	231,630.0	271,823.0	277,274.0	329,093.0			
		達成率	—	84.0	96.4	96.3	112.0	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		①五感による湖沼環境調査 モニター数(人・団体) R3:87 R4:95 R5:93 と推移 ②小中学生等による流入河川調査 実施団体数(団体) R3:44 R4:35 R5:33 と推移 ③中海宍道湖一斉清掃 参加人数(人) R3:908 R4:6,048 R5:7,033 と推移 ④ラムサール関連イベント 実施イベント数(回) R3:1 R4:2 R5:2 と推移 ⑤大型水鳥関連イベント 実施イベント数(回) R3:8 R4:4 R5:9 と推移 ⑥賢明利用関連普及啓発 広報数(回) R3:15 R4:13 R5:9 と推移								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・中海・宍道湖一斉清掃など島根・鳥取両県連携事業や宍道湖・中海の魅力伝えるパネル展示会による情報発信などにより、宍道湖・中海の価値や魅力について一定の理解がされている状況。
課題分析	①課題	・「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために)支障となっている点
	②原因	・宍道湖・中海の環境や賢明利用に関する発信が少なく、発信先が限定的で地域住民に宍道湖・中海の価値や魅力が十分に伝わっていない。
	③方向性	・国や鳥取県、関係市及び民間等の関係機関と連携して、イベント等の内容充実を図るとともに、動画配信やSNSの活用等により情報発信を強化し、宍道湖・中海の認知度向上を図る。

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課	観光振興課
-----	-------

事務事業の名称		「ご縁の国しまね」観光総合対策事業			
目的	誰(何)を対象として	観光ニーズを持つ県外在住者および県内の観光事業者	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	県外在住者:「ご縁」等の島根のイメージを発信することで、島根に興味を持ってもらい、来訪してもらう。 観光事業者:「ご縁」といった島根のイメージに沿うような観光商品や受入体制をつくる。		うち一般財源 (千円)	321,749
令和6年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアリレーションによる各種メディアでの露出拡大</li> <li>・観光キャラクター「しまねっこ」を活用した情報発信</li> <li>・歴史文化をテーマとしたセミナー等の開催</li> <li>・出雲、石見、隠岐の地域ごとの観光資源を活用した旅行商品の造成支援</li> <li>・教育旅行、ワーケーション、ユニバーサルツーリズムなどテーマ型旅行の推進による誘客促進</li> <li>・交通機関や他県等との広域連携による誘客促進</li> </ul>			
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと		<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR観光列車の発着時に行われる地元おもてなし事業への補助メニューを新設</li> <li>・地域の特性に合わせた誘客・周遊促進事業の強化</li> </ul>			
1	上位の施策	I-2-(2) 観光の振興	3	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	Ⅲ-3-(1) 稼げるまちづくり	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	観光入込客延べ数【前年度1月～当該年度12月】	目標値		32,800.0	24,664.0	29,182.0	33,700.0	34,000.0	千人	単年度値
		実績値	32,990.0	21,318.0	20,842.0	25,950.0	30,194.0			
		達成率	—	65.0	84.6	89.0	89.6	—		
2	宿泊客延べ数【前年度1月～当該年度12月】	目標値		3,730.0	2,978.0	3,399.0	3,820.0	3,850.0	千人	単年度値
		実績値	3,782.0	2,424.0	2,628.0	3,113.0	3,591.0			
		達成率	—	65.0	88.3	91.6	94.1	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		しまねの観光認知度調査 ①旅行意向割合 R6年3月:61.4% R5年3月:64.3% ②ご縁の国しまね認知度 R6年3月:12.2% R5年3月:14.1% 観光総合支援事業補助金 採択事業数 R2:11件/R3:5件/R4:3件 魅力ある観光地域づくり支援事業補助金 採択事業数 R5:4件 周遊バス運行 R2:4コース/R3:4コース/R4:2コース/R5:1コース								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリシティによる露出件数:R5年度 460件(テレビ:15件、雑誌:8件、WEB:437件) ※R4年度 746件</li> <li>・しまねっこの公式SNSを活用した情報発信や、リアルイベントの開催による誘客促進(イベント来場者:1.1万人)</li> <li>・歴史文化をテーマとしたセミナーの実施(参加者:東京60名、大阪50名、オンライン387名)</li> <li>・魅力ある観光地域づくり支援事業補助金により、地域ごとの観光資源を活用した旅行商品の造成を支援</li> <li>・貸切バス旅行商品造成販売支援:338台、10,685人泊</li> <li>・教育旅行の誘致:38件(うち全国旅行支援等26件)</li> </ul>
課題分析	①課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ご縁の国しまね」の認知度と来訪意欲の低下</li> <li>・個人旅行者の交通アクセスが不便</li> <li>・石見、隠岐地域への県外からの誘客ルートや県東部と繋がる観光周遊ルートが確立されていない</li> <li>・個人旅行者のニーズに合った観光地域づくりが不十分</li> </ul>
	②原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知度向上に効果的であるテレビへの露出が少ない</li> <li>・来県する一次交通、観光地の周遊に利用する二次交通がともに不便</li> <li>・観光資源の旅行商品としての成立や販売に繋げるノウハウや仕組みの定着が不十分</li> <li>・多様で移り変わりの早い旅行者のニーズ、トレンドに対応する観光コンテンツの提供ができていない</li> </ul>
	③方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビの露出獲得に向けて、日比谷しまね館を活用し、各メディアへの戦略的な営業活動を展開</li> <li>・一次交通、二次交通を担う事業者等の旅行商品の造成・販売支援</li> <li>・地域の特色ある観光資源を活用した旅行商品づくりや販売強化の支援</li> <li>・旅行者のニーズ・トレンドの把握</li> </ul>





# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課 文化財課

事務事業の名称		未来に引き継ぐ石見銀山保全事業			
目的	誰(何)を対象として	県内外の人々	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値を高め、その価値や魅力についての情報発信による認知度の向上や、適切な保存整備を図ることで、確実に未来に継承する		72,637	86,054
令和6年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>石見銀山遺跡の全容解明及び価値を高める基礎調査研究(考古学・歴史民俗学・自然科学)を実施し、その成果について調査報告書を刊行するとともにHPIに掲載する。</li> <li>令和9年の石見銀山発見500年、世界遺産登録20周年を見据え、石見銀山が世界経済や国内の鉱山開発に与えた影響に関するテーマ研究を進める。</li> <li>世界遺産センターでの企画展や講座の開催等により、調査成果の県内外への発信を行う。</li> <li>大田市や関係機関と連携し、史跡等の保存整備や安全対策事業への支援を行う。</li> </ul>			
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと		<ul style="list-style-type: none"> <li>子供向けの情報発信手段として、石見銀山遺跡を紹介する紙芝居を制作した。</li> <li>一般の方が興味関心を高められるよう、石見銀山と接点のある戦国武将を絡めるなど講座の内容を工夫する。</li> </ul>			
1	上位の施策	Ⅵ-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	石見銀山遺跡に関する調査研究・保存整備の成果が公開された回数【当該年度4月～3月】	目標値		10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	回	単年度値
		実績値	8.0	8.0	8.0	9.0	11.0			
		達成率	—	80.0	80.0	90.0	110.0	—		
2	講座等での参加者アンケートにおいて石見銀山遺跡への興味・関心が高まったと感じた人の割合【当該年度4月～3月】	目標値		95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	%	単年度値
		実績値	91.2	97.0	94.6	96.0	96.0			
		達成率	—	102.2	99.6	101.1	101.1	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> <li>世界遺産石見銀山遺跡の首都圏での認知度(しまねの観光認知度調査)は、R2年度34.6%、R3年度32.1%、R4年度33.2%、令和5年度33.4%と推移</li> <li>石見銀山の入込客延べ数は、R2年171,000人、R3年165,400人、R4年220,100人、令和5年246,100人と推移</li> <li>オンライン講座(配信申込者数1,705人)、県内講座(参加者数269人)、世界遺産センター企画展(9/27～11/27 合計観覧者数9,030人)</li> </ul>								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査研究を着実に進め、その成果を報告書の刊行や企画展の開催、講座等により情報発信した(11件)。</li> <li>10箇所の史跡等の保存整備や安全対策を着実に進めた。</li> </ul>
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために支障となっている点)</li> <li>調査研究の成果内容が専門的であるため、一般向けには分かりにくい情報となっている。</li> <li>保存整備を行う必要のある史跡等が残っている。</li> </ul>
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記①(課題)が発生している原因</li> <li>登録時の世界遺産委員会の要請に対応するよう、学術的な調査研究を継続して行う必要があるため。</li> <li>史跡等の保存整備に際して、所有者や関係機関等との調整に時間を要する。</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>学術的な調査研究を推進しつつ、その成果について幅広い世代の関心を引くような親しみやすい情報発信に努める。</li> <li>史跡等の保存整備について、今後の計画を共有するなど所有者や関係機関等との連携を進め、支援を継続していく。</li> <li>令和9年の石見銀山発見500年に向けて、石見銀山の「魅力化」や「持続化」の取組を大田市等と連携して検討する。</li> </ul>

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		島根の歴史文化活用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	県内外の人々	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	しまねの豊かな歴史文化の魅力を広く伝え、県民の郷土への自信を培う。県外の方々には、しまねの歴史文化に関心をもってもらうことで、人々の交流を促進する。		32,058	36,816
令和6年度の取組内容	(1) 県民参加型事業(講座) ①島根の歴史文化講座(松江) ②隠岐国巡回講座 ③石見国巡回講座 (2) 県外における情報発信 ①古代出雲文化シンポジウム(東京) ②しまねの古代文化連続講座(東京)+しまねの古代文化探訪バスツアー(島根) ③島根の日本遺産に関する情報発信 (3) 他県との連携事業 ①古代歴史文化に関する共同調査研究(古代歴史文化にゆかりの深い県との連携)				
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・古代出雲文化シンポジウム会場で講師が案内する現地映像を流すなど、来訪者増加への工夫を継続 ・シンポジウム・講座・バスツアーで「島根の特色ある古墳」を繰り返し取り上げ、来訪動機を喚起 ・歴史文化に関心のある新たなファン層を獲得するため、引き続き動画やSNSを定期配信				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	Ⅰ-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	島根の歴史・文化に関する講座・シンポジウム等参加人数【当該年度4月～3月】	目標値		5,000.0	6,000.0	6,000.0	9,000.0	9,000.0	人	単年度値
		実績値	4,967.0	5,800.0	6,643.0	8,960.0	154,218.0			
		達成率	—	116.0	110.8	149.4	1,713.6	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		講座・シンポジウム参加者数内訳 R2 総数5,800名 うち会場1,181名(20%)、オンライン4,619名(80%) R3 総数6,643名 うち会場1,170名(18%)、オンライン5,473名(82%) R4 総数8,960名 うち会場2,256名(25%)、オンライン6,704名(75%) R5 総数154,218名 うち会場1,950名(1.2%)、オンライン152,268名(98.8%)								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・講座・シンポジウムについては「しまこだチャンネル」での動画配信を実施し、オンライン視聴者数は23倍に増えた。 ・シンポジウム会場で上映した、講師が「出雲国風土記」現地在案内する映像は、アンケート回答者の87%が満足と評価し、「島根県に行ってみよう」という回答も96%を占め、島根県への来訪希望者を着実に増やすことができた。 ・首都圏在住者を対象としたバスツアーの参加者は満員となった。さらに参加者に詳細なアンケートを実施することで、島根の古代文化に対するニーズの把握にもつながった。
課題分析	① 課題	・講座・シンポジウムにおいて、会場参加者数が減少する一方で、オンライン視聴者数の大幅増という偏った状況となっている。 ・オンライン配信動画の視聴者数は極めて増加したものの、それを維持するためにはリピーターを確保する必要がある。
	② 原因	・県内講座での会場参加者数が減少している。 ・リピーターを確保するための取組が十分とはいえない。
	③ 方向性	・県内講座はワークショップや会場での展示などを含めた多様な形態で開催し、会場参加者の増加につなげる。 ・視聴者のニーズに即した良質な動画を提供することに加え、メーリングリストを用いて新規動画の公開について情報提供する。また、リピーターの確保と新たな歴史ファン層の獲得に向けた、動画の配信方法を工夫する。